

## 府中市生涯学習審議会（令和3年度第3回）会議録

1 日 時 令和4年1月18日（火）午後2時～3時45分

2 場 所 府中駅北第2庁舎3階 会議室

3 出席者（敬称略）

(1) 委員10名

榎本成子委員、木内直美委員、佐野洋委員、田頭隆徳委員、立石朝美委員、  
中村洋子委員、松浦浩司委員、松木博子委員、福田豊委員、藤原美江委員

※岩久保早苗委員、大谷久知委員、島田文江委員、内藤大輔委員、

長畑誠委員欠席

(2) 職員5名

二村文化生涯学習課長、楠本文化生涯学習課長補佐、柏木生涯学習係長、  
山本事務職員、諫山事務職員

4 報告事項

(1) 配布資料の確認

ア 資料1 第2回府中市生涯学習審議会会議録（案）

イ 資料2 令和3年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会資料（抜粋）

ウ 資料3 府中市生涯学習サポーターについて

エ 資料4 第2回生涯学習審議会における生涯学習サポーターについての意見

(2) 前回議事録の確認

各委員に校正を依頼した前回議事録（案）について、市民に公開することが了承された。

(3) 令和3年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会について

副会長から12月11日（土）に開催された交流大会・社会教育委員研修会について説明があった。

5 審議事項

(1) 「学び返し」を進めるための地域人材の活用について

副会長： 前回から期間が空いているため、審議の流れや審議内容をもう一度確認をする。今期の審議会では、諮問事項を「『学び返し』を進

めるための地域人材の活用について」とし、特に生涯学習サポーターに焦点をあて、どのような形で市民に浸透し、コミュニティスキルの向上や地域社会のニーズに応じて講座に携わってもらうことができるのかなどについて議論を進めていく。本日は、市民の認知度の向上や能力・スキルアップをする前に「そもそも生涯学習サポーターとは、何のため、何をやる人なのか」という基本の確認をし、それを審議会委員内で共有したいと思う。このことについて、本日欠席の会長より、流れについてお預かりしているので、それに沿って進めたい。内容としては、数点に論点を絞って、議論を進めていく。1つ目は、生涯学習サポーターを利用したことがある方、あるいは自身がサポーターである方がいれば、いつ、どこで、誰から誰に対して、どんな学習をしたかなどについての経験をきかせてほしい。2つ目は、皆さんが自身で何らかの生涯学習に取り組むと想定したら、どんなサポーターにどのような講義や指導、ファシリテーション等をお願いしたいか。3つ目は、皆さんの周りに、「この人の話を聞いてみたい、この人の技術を教えてほしい、この人の経験を共有してほしい」という人がいるか。いるとすればそれはどんな人か。4つ目は、府中市でこれから「どんな人たち」に「どんなテーマ」で学びが広がるといいと思うか。この4つの観点について議論し、意見を交わす中で、府中市生涯学習サポーターの位置づけや目的の輪郭を生涯学習審議会委員の中で明確にしていきたいと思う。まずこの点について、自由に意見をいただきたいと思う。

委員： その前に確認したいことがある。第3次府中市生涯学習推進計画では、生涯学習サポーター養成講座の修了者数を年間20人以上となっているが、これが現状ではどうなっているのかについて、教えて頂きたい。

事務局： 資料3の裏面にサポーター登録者数、指導内容別登録者数、依頼数、指導内容別依頼数を記載しているため、そちらを参照していただきたい。

委員： 依頼数が減少していることに対して何か分析等は行っているのか。

事務局： 令和に入ってからには特に新型コロナウイルス感染症の影響があり、依頼数が減少している。

委員： 具体的な提案が1つある。その前に議論の前提について確認した

いことがある。すでに、生涯学習サポーターの登録人数は議論になっているが、そもそも生涯学習の管理のサイクルを進めていくという話の枠組みがよく見えていない。今あるデータベースとしては、生涯学習サポーター登録者一覧があるが、体系的になっていない。ランダムに発生してきたものをピックアップしている感じであるため、今の段階で体系的に組み直してはどうか。サポーター一覧を見て感じたのは、歴史に関することが入っていない。武蔵国府のあった府中のことを研究して、それを市民に説明するという活動ができる項目がない。それがあれば自分もやってみたいと思う。それを管理のPDCAサイクルに当てはめると、最初にPlan、Do、Check、ActionのPlanを作る必要がある。Planを作るためには、まず意義をまとめることから始まる。他の項目も同様であるが、そこが整理されていない。歴史については、府中は関東の中心的存在であったことをもっと知ってもらってもいいのではないか。前提の1つとして、府中は歴史的に由緒ある街であるということを体現する施設があまり魅力的ではない。府中本町駅の隣に柱が建っているが、あまりインパクトのあるものではない。青森の三内丸山遺跡のように大胆な発想で、国司館などを復元して建物で目に見えるものにすればインパクトあるものができるのではないか。そういったものをベースとして、Planのところ、どのような人を何人くらい養成するか、そのための指導者を選定して、講座を開く、これは生涯学習センターの講座の中に入れて込んでいい。次にDoとして、研究者の養成と研究者によるガイドサポーターの養成をする。例えば生涯学習センターに講座を設けてガイドサポーターを養成する。また、府中の歴史を日本語以外の言語でも説明できる人を養成して検定し、受かった人をサポーターに登録する。そういうことをやってPDCAサイクルで毎年回していければ良い。そういうような方向性で今後市が主体となって進めてもらえればいいと思う。

委員： 生涯学習サポーターの話になると、議論が混在してしまっている印象を受ける。登録者数は資料3の裏側に出ている。また、生涯学習センターの講座の受講者数は前回の審議会の資料に出ている。この講座の受講人数が、企業などが営業でやっているセミナーや講座に比べると極端に少ない。生涯学習の講座として考える考え方と、

生涯学習サポーターは別物だと思う。生涯学習センターの講座はどのような講座を、誰に向けてやるかということである。それに対して、生涯学習サポーターは個人が何を教えられるかを登録するだけのものである。そのため、生涯学習の講座と生涯学習サポーターは噛み合わない。生涯学習サポーターに登録している人を誰がどこに呼ぶか、私が中国語を学びたいと思っても生涯学習サポーターは呼べない。1人であればその人の教室に来てと言われてしまう。そのことを踏まえて生涯学習サポーターを活用するということは、誰が何をするためにどこに生涯学習サポーターを呼ぶのか、その効果として、何を期待しているのかを考えていかなければ、いくら登録者を増やしたとしても活用のしようがない。そのため、その人をどこで活用するかを考えていかないと、話は進んでいかないのではないか。

委員： 今の話は、先ほど私がした話と同じことである。Planを作るということは、どういう項目について指導者やガイドを養成していくか、そして養成する場所は生涯学習センターでもいいし、他の場所でもいい。先ほど言われた趣旨の中に生涯学習センターの講座というのは、ある分野は位置づけられているため、そういうことを実現するための手段として生涯学習センターやほかの講座はあると思う。それはPlanで、こういった場所で養成するのかを位置づければ良いと思う。今の段階では、まだPlanが完成していない段階で走り出した結果が生涯学習サポーター一覧という形でまとめられている。これをまとめ直して、どういう分野でこういった人が必要なのかという目標を作り、その実現のためにどうやって育成するか（例えば生涯学習センターの講座で行う）といったベースの計画表を作成する必要がある。

委員： だんだんと問題点が見えてきたように感じる。実情として、どこで何人ぐらいに対して、講座が開催されたのかということを知りたい。そういったことがわかってくると第3次府中市生涯学習推進計画との関係も見えてくるのではないか。

委員： 例えば、前回の審議会の資料の中で生涯学習センターの教養講座及び生活実技講座の受講概要に15件の講座が書いてあり、講座名も書いてあるが、この15件の講座の講師は生涯学習サポーターに登録している人なのか。こういう時に生涯学習センターが自分でも

生涯学習サポーターを活用しているかどうかが重要である。生涯学習サポーターの登録者からこの講座を作ったとき、参加者の人数を講座の魅力度とするか、受講者のニーズと考えるのか、など実態として調べるときにどう評価するのが必要になってくるのではないか。また、今まで審議してきた、新しい「学び返し」を考えたときに、この15個の講座の内容で大丈夫なのか、そして、地域の課題解決という言葉があったが、文化講座をやっても地域の課題解決にはならないため、何が講座として必要とされていて、どこでその講座を行って誰に来てほしい、誰に教えてほしいのかということをもっと細かく考えていかないと、詰まっていけないのではないか。

副会長： 生涯学習サポーターの活動実態が分かりづらく、なかなか議論になりにくいという意見だったかと思う。また、個人では依頼できない点など、活用方法が分かりづらいということもあるかと思う。指摘のあったように誰に教わりたいのかということが、技能やサポーターの能力の可視化など、依頼者からできることも必要という意見であったと思う。また、第9期からも続いている、地域の課題解決が重要である。そのベースとしては、コミュニティスキルを身に付けるということもあったと思う。そのうえで、地域の課題が問題として浮き上がっていることと、その問題を解決するための方法として、技能がマッチングできるかどうかという点も難しいところではないかと感じた。問題に応じて誰が来ればいいのかという点はまだわからないことかと思う。問題と解決手法のマッチングをすることについて、委員のみなさまから意見をいただきたいと思った。また、事業の体系的な教育制度とはどのように考えればいいのか。

委員： 府中市において生涯学習のニーズがどこにあるのかを鮮明にして、PDCAサイクルを回していくということになると思う。途中からの議論をしてもまとまらない。すでに走りだしてしまっているため、ここまでの実績はあるので、これを組み替えて、府中の歴史などの項目も含め市民に説明できるような体系を作る必要があるのではないか。そういうのも含めて、民間企業がやっているようなPDCAサイクルを回していければ、効果が高まるのではないかと思う。最初にどういう項目を生涯学習として取り上げていくのかを整理されていないといくら議論しても先に進んでいかない。そのニーズに応じてそれに見合うレベルの人を何人いつまでに養成してどう

いう教育計画でやっていくかということになってくるかと思う。

事務局： ご指摘いただいた体系立ては必要であると考えている。現状を交えてお話をさせていただくと、生涯学習センターとの違いの部分で一番大きいところは、生涯学習センターの講座については、多くの市民の方を集めて行えるような講座が生涯学習センターでの講座になっている。一方で生涯学習サポーターについては、市民の方それぞれが習得した技術をお持ちの方に自由に登録してもらっているものである。そういった方に対して市民が一定の団体に集まって教えてもらいたい内容でマッチングした場合にその団体が依頼するというものである。市民の「学び返し」という趣旨の理想と非常に合った形である。これと似た制度で府中市の職員が団体に出向くという出前講座も行っている。職員が出向いて知識を話す機会も必要であるし、それに合わせてサポーター制度も有効に使っていききたい。そうすることで、地域での助け合いにより生かしていける。そういったものを地域の中で協力しながらやっていけば地域の連携も深まっていくのではないかとこのところ今回の議論が繋がれば良いと考えている。

委員： 要するに、講座の補完的な関係にあるということか。

事務局： 生涯学習センターの講座を補うように地域でもそういった学び返しが生かしていけるものになっていくのが理想である。そういった役割もあるかと思う。

委員： 生涯学習サポーターが行う講座には何か名前があるのか。

事務局： 講座に名前はなく、生涯学習サポーター登録制度となっているため、そこに何か位置づけを作るというのも1つの案ではないかと思う。

委員： 会場を借りて、勉強会をやるとなった時にはどういった名称でやるのか。

事務局： 依頼した団体が、勉強会の名前を付けるという形になる。

委員： 先ほど、生涯学習サポーターは生涯学習センターの講座を補完する関係と言っていたが、補完よりも少し進めて、同じような位置づけで捉えて、補完よりも融合したものにした方がいいのではないかと思う。例えば、生涯学習センターでパソコン教室が開かれているが、その講師はまさに生涯学習サポーターと同質の方がやっていると思うので、この分野は生涯学習センターで、こっちの方は生涯学

習サポーターでということではなく、Planするときにはミックスして計画して実施していくのが良いと思う。やはり、市民のニーズをはっきりすることが必要である。末端のところを議論しても、市民のニーズに本当に合うのかどうかというのがずれてしまうため、計画的なニーズに基づいたものに変えていく必要があると思う。また、第3次府中市生涯学習推進計画を見ていると、具体的なことがあまり書いていないため、具体的なことを入れ込む作業が必要だと思う。

委員： 生涯学習センターで活動している悠学の会としては、委託されている事業と悠学の会で計画している事業と生涯学習サポーターのことなど、どのようにとらえているのか聞きたい。生涯学習サポーターの全体で連絡し合う会や、その全体の事務局といった体系があれば分かり易いと思う。

委員： 現在、悠学の会の中で生涯学習サポーターに登録している人はいないと認識している。以前いたのは、個人的に悠学の会でやることではないことをやりたい人が登録していた。先ほどの15個の講座についてはすべて、生涯学習センターで企画しているものとなっている。そして、悠学の会で企画しているものとしては、府中の歴史などを4～5回で話すという講座を企画・実施している。また、パソコンの講座については、悠学の会の中で年間計画を立てて、生涯学習センターと相談して、年間約20講座行っている。シルバー人材センターの講座もあるため、相談して棲み分けている。

副会長： 生涯学習サポーターの登録は自主的なものであるため、この内容に何人と決まっているわけではないという点。また、依頼するには団体でなければいけないという点。教養系の講座はあるが、技能系の講座はないという点の指摘もあったかと思う。施設を使用する上での課題も議論があったと思う。生涯学習センターの講座はシラバス的な講座体系になっており、何回である程度のレベルまで行ける形になっていると思うが、生涯学習サポーターは、単発的に学ぶような場合に利用されるというような印象を受けた。また、出前講座はより専門的な内容で実践的な内容を提供しているという形で、ある程度の棲み分けはあると感じている。

委員： 生涯学習サポーター登録者一覧を見ても生涯学習センターの講座と内容が被っている人もいるため棲み分けができていない

と思う。棲み分けをするのであれば、生涯学習というのはどういう項目がどういうニーズがあり、その中のこういう分野については、生涯学習センターで行い、違う分野については、生涯学習サポーターで講座を行うという棲み分けになると思う。今はそこが混在している。その中で議論をしても市民ニーズをカバーすることにはならないと思うので、全体の話をした方がいいのではないかなと思う。

副会長： 諮問事項は「『学び返し』を進めるための地域人材の活用」ということで、特に生涯学習サポーターに焦点を当てるということであるが、全体のニーズを把握するというのには何か案はあるか。

委員： 分科会を作って議論するか、事務局でたたき台を作ってもらい議論するということになるかなと思う。

副会長： 府中市全体からニーズを汲み上げることの方法等はどのように考えているのか。

委員： 行政側として市民に対して、こういう知識が必要という方向性と、市民からこういうことをしてほしいという汲み上げと両方あると思う。あるべき姿というのが、市民の要望と一致するとは限らないため、その部分の兼ね合いだと思う。

委員： 第3次府中市生涯学習推進計画の21ページには、施策体系があり、これを見ると我々が議論すべきところがまとまっていると思う。この体系に落とし込んで議論をすればいいのではないかなと思う。

事務局： 今回の諮問事項については、基本施策2の「誰もが活躍できる環境づくり」の施策2の「生涯学習を地域づくりにつなげる人材の育成や登用」に該当する。

副会長： 具体的な施策については、各施設の担当者が決めており、方向性を当審議会で決めているということになっている。活動実態が分かりにくいということ指摘があった。体系ができていないとの指摘もあったので、今後検討していきたい。講座の内容として、どのようなニーズがあるのかについて、事例ベースで委員の皆さんから意見をいただきたい。

委員： 地域の課題解決につながるということであるが、何を持って地域の課題というのかその部分を提示されないと議論のしようがない。

副会長： 自身の住む地域で感じていることなどを事例ベースでご意見をいただきたい。



委員： 確認したいのだが、生涯学習サポーターの実施報告などはあるのか。また、全体として共通したテーマがあると良いと思う。登録者との勉強会などを行って講師としての水準を上げていくという仕組みなどはあるのか。

事務局： 依頼があった際には、依頼団体に実績報告書の提出をお願いしており、参加人数と指導中の様子などを書いてもらっている。登録者同士での勉強会などは行っていない。

委員： 生涯学習サポーター一覧を見ていると、フリーランスの営業リストのように感じる。内容をニーズに合うようにより精査したほうがいいのではないか、例えば、講座内容を「発声指導」等と書いて登録しているが、発声指導を受けるために講師として呼びますか？よばないでしょう。発声指導することにより、高齢者の喉の筋肉を鍛え嚥下機能の低下防止に役立つなどという切り口なら分かる。または、こちらから「このような内容で出来るか」を聞いて講座として組んだ形をアドバイスをするということも出来るのではないか。また、「電波無線について教えられる」という内容記載では何に利用できるのか、講師のスキルをどのように講座に落とし込めるのか、そしてその講座の内容がいまタイムリーなのか、そして、その講師がその内容に対応できるかできないかといった視点で見ていかないとただ申告したことを分類してそのまま掲載しても意味がないのではないか。やりたいことがあって人を探すのか、人がいるからそれをやらしてもらおうのかどっちが先かということも一つにある。しかし、地域の課題という事を考えると、どちらかというと前者の考えになると思う。そして、こんなふう考えたらどうかというのは提案力であるため、当審議会のメンバーの中で今年はトライアルでこんなことをやってみたらどうかという講座提案を試みたり、生涯学習センターが新しい知識で講座を作ることなど、具体的な動きに落とし込んでいかないと、見えてくるものが少ないなと感じた。

委員： 今のお話は納得するところが多かった。ただ、個人の考えとしては、フリーランスの営業でもいいのではないかと感じている。

委員： 生涯学習サポーターという名称に引っ張られすぎず、別の視点を持っていいのではないかと考えている。

委員： 登録者の中には無償の方も含まれているので、一括して依頼する側が判断すればいいというスタンスだと思う。そのため、選択肢は

多いに越したことはないと思う。先ほどの話に出ていた、電波無線も、市民の中には、電波が怖くて、携帯などの利用をためらっている人もおり、そういったことを教えてほしいニーズはあるため、そういうことを教えてくれる人がいるということがわかるだけでも役に立つ人もいるのではないかな。

委員： 個人で持っているスキルをどうやったら活かせるか、スキルの再構成をアドバイスできる人がいない。

委員： 生涯学習サポーター一覧を作成するときには分類をして、事務局の担当者や審議会委員が切り口を当てはめて、味付けすればいいのではないかなと思う。

副会長： 問題の表現方法と、それに対応する能力や技能の表現方法をマッチングさせることであると思う。自由に指導内容を書かずに、ある程度、表現方法を限定して、その中で行ってもらうということであったと思う。実行は難しいかもしれないが、せっかくの人材であるため、活用の仕組みを整えることは重要であると思う。

委員： 生涯学習サポーター登録者一覧の分野は大まかな印象をうけるし、その他に分類されている人が多いように感じたが、これはどのように分類をしていったのか。

事務局： 生涯学習サポーター事業を開始した際の最初に分けた分野のまま今まで来てしまっている。今後は分野の更新についても検討していきたいと考えている。

委員： 最初に出来たころとニーズは変わってきていると思う。自身が所属しているグループで、生涯学習サポーターと出前講座を依頼したことがあるが、出前講座と違って生涯学習サポーターはオーソライズされていないため、頼みにくいというのがある。そのため、依頼者とのマッチングの仕組みや、能力の可視化などを取り入れると頼みやすくなるのではないかな。生涯学習サポーターに登録していることを売りにしている人もおり、実際にフリーランスの営業リストになってしまっている側面もあるため、生涯学習サポーターについての目的などをもう少し書いてほしい。また、自分の知っていることを人に教える技術はまた別のものであるため、生涯学習サポーターに対するサポート制度や講座のようなものも必要であると思う。

副会長： その点については、以前から話に出ているコミュニティスキルを身につける必要があるという啓蒙と、サポーターになる人はそう言

った講座を受けたという証明が必要ではということであったとも思う。

委員：　すでに生涯学習センターには、生涯学習サポーター養成講座というのがある。

委員：　生涯学習サポーター養成講座を受講しないと、登録はできないのか。

事務局：　そういうことではなく、受講、未受講に関係なく登録することは可能である。

委員：　生涯学習サポーターは自由に登録できるとのことだが、登録したいと申し出れば誰でも登録できるものなのか。基準などはあるのか。

事務局：　細かい基準はないが、市内在住または在勤の方で知識のある方を対象としている。申し込みに来た際に今までの活動や、経歴の聞き取りし、受け入れている。審査制度というわけではない。

委員：　生涯学習サポーターに登録していない方の中でも、能力がある人はいるので、そういった人たちを発掘して登録するようなやり方があればいいと思う。

委員：　自分で手を挙げるのはためらってしまう人もいるため、本人の承諾をとったうえでの推薦制度などもあればいいと思う。生涯学習センターで行われている講座などで、生涯学習サポーターと協力してやってみるなど、ミックスした考え方をしても良いのではないか。別々になってしまっているような感じがする。

副会長：　人材を発掘するということであるが、一つは推薦する、もう一つは市の広報などを通じて、広く市民に継続して声をかける、そうした場合に、能力評価的に何ができるか、何に結びつくかまで含めて人材を継続的に発掘することが必要であるが、何か案などはあるか。

委員：　地域に有能な人材がいて、その人が登録しているのであれば、それを生涯学習センターの講座担当者に提案するというルートがあっても良いのではないか。サポーター登録または更新の時に学習センターの講座の講師となる場合がある旨の項目を加えて、それをクリアしている人を生涯学習センターの講座編成の際に提案することもできるのではないか。こういったことも一つの地域人材の活用の仕方かと思う。

副会長： 登録制度の枠組みをしっかりとし、ある程度の能力評価がされた人は生涯学習センターの講座の講師の候補者として、提案されるというイメージだったかと思う。

事務局： 生涯学習センターには市民企画講座というものがある。これは自分で企画を出して、生涯学習センターに自分自身を提案するというものである。その市民企画講座を出すには、生涯学習センターで行っている、生涯学習ファシリテーター養成講座を受講する必要がある。すべての企画が実現されるわけではなく、生涯学習センターの中で審査をしている。今出たお話を審議会の意見として、指定管理者に提案することは可能である。

委員： もともとのニーズ、課題があって、この課題に対して、この講座があり、どういう講師が行っているか、という一覧表があり、その中で、充足していないところをクリアにする整理が最初にあるのではないか。その充足していないところが多ければ、どのように埋めていくかという話であると思う。今期から委員として参加しており、今までの議論を把握できていないが、今までの話を聞いていると、断片的な話が出てはいるが、これで諮問事項の議論が進むのかというように思う。事務局でそういった一覧を作ってもらいたい。

副会長： 委員間での認識の違いもあるかと思う。

事務局： 第3次府中市生涯学習推進計画の3つの基本施策の中から課題を見つけて、より具体化した案を立てていこうとしたのが第9期である。それを受けて、第10期では、地域の人材活用に焦点を当ててということになっている。少し継続した内容になっているため、今期から委員として参加いただいている方には説明が足りてない部分があった。

委員： 資料があれば、それを出してほしいということであって、そういった資料がないということは議論が進んでないということの意味する。そこが必要なのではないかということである。

副会長： 様々なご意見が出たと思う。最後に事前に会長自身の考えを預かっているので紹介する。生涯学習サポーターは、「府中市に住む、そして通う、多種多様で多彩な人たちが、その人のもつ経験や技術を身近な地域の人と共有することを通じて、『学びあい』のコミュニティを形成していくこと」が役割であり、身近にいるさまざまな経験や技術をもつ人たちが、地域の人たちとつながり、学びあい、教え

合う、そういう繋がりを創り出せるのが生涯学習サポーターである。そのため、「サポーターに講師に来てもらって教えてもらった。それで終わり」ではなくて、「継続した学びあいの繋がり」が作られることが大切ではないか。とのことであった。

## 6 その他

次回の審議会の開催時期について、令和4年4月または5月に開催することで、了承を得た。